

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	○子ども達一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、人と関わる力、たくましさ育てていく。 ○遊びを中心に主体性を大切に一人ひとりの個性・発達の姿に応じた援助・保育をする。
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		世界の言葉や特産物、特徴などを【ちきゅうフレンズ】を通して知ることが出来た。絵本を通して水の大切さを知ることが出来、水がなくなったら困ることを考えたり、大切にするにはどうしたらよいのかを考えるきっかけとなった。また他国の服装の違い、言葉の違いなども知った。英語だけではなく言葉も覚え、挨拶時に他国の言葉で挨拶をしていた。	
		(取組日) 令和7年 5月27日 ～ 令和7年5月27日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		水の中で生息している生き物に触れることや間近に観察することが出来た。鯉を実際に触り、触り心地を楽しんだり、鯉の求愛の大きいジャンプも見ることができた。そして、リクガメにご飯を上げたり、カメやカニに触れたり、様々な経験が出来た。	
		(取組日) 令和 7年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		みかんの木にアゲハ蝶の幼虫を発見し飼育を始めた。かなり小さかった幼虫がイモ虫に変化をしたり、絵本と重ねながら成長過程を観察することが出来た。そして、アゲハ蝶が卵を産む木はどこなのか？どの葉を好むのか？調べたり、木を大切にするためにはどうすべきかなども考え、夏場は水やりに励んでいた。木々や食物を大切にすることで何につながるかを知ることが出来た。	
		(取組日) 令和 8年1月10日 ～ 令和8年1月20日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		園の木に実った38個のみかんを収穫した。収穫後は、皮を剥きに挑戦した。皮を剥いた時に香る香りに【いいにおい】と感じる子が多く、皮むきを楽しんでいた。子どもから種を植えようとの声が上がったためバケツに土を入れ種を植えた。残念ながら芽は出てきていない。	

3	取組概要	(取組日) 令和8年 1月 10日 ～ 令和8年1月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること みかんの皮に魅了されいい香りなのに破棄するのがもったいないとの声が上がりました子ども達と何か再利用は出来ないかを考えた。一度乾燥させ、茶葉の様に【消臭剤】との意見があったり、【いい香りだからお風呂に入りたい】との声が上がった。茶こし用のパックに乾燥した皮を入れて持ち帰った。お風呂に入れた家庭ではいい匂いのお風呂になったと報告があった。	
		(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 葛飾区の環境学習でごみの仕分けを教えて頂いた。実際にごみのサンプルを持参して頂き、子ども達でもわかりやすい様に説明して頂いたり、分別をすることでどのような効果があるのか、リサイクル品は何で出来ているのかを知ることが出来た。クラスのゴミ箱にも燃える・燃えないの表示をし、子ども達が進んで分別出来るように環境設定をしている。	
		(取組日) 令和 7年9月2日 ～ 令和 8年3月16日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 世界には、ご飯を食べたくても食べられない国がある事を知ったり、米作り、野菜栽培を通して米や野菜を育てるにはかなりの時間がかかる事を経験し、食べ物の大切さを知ることが出来た。そして、日々の残食の重さをペットボトルに水を入れ同量の重さにした。実際に持ってみようとしても重くて持てない事を実感し、少しずつ残食を少なくしていけるようにクラス単位で残食表にチェックをしていった。一人ひとりの意識が変わり残食がかなり減った。	
		(取組日) 令和 7年11月5日 ～ 令和7年11月7日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 卒園生から頂いた制服や園の用品をあつめて【おさがり交換会】と題して期間限定で開催した。入園時よりも体が大きくなり、サイズが合わなくなっていると困っているとの声が多く、今回初めての開催だったが、とても喜んで頂いた。	
		(取組日) 令和 7年11月5日 ～ 令和7年11月7日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 私服なども【おさがり交換会】に保護者の方々に出品して頂き、サイズ別・種類別に分けて行った。思っていた以上におさがりの服を喜んで頂き、楽しんでいる保護者の方々が多かった。その後、おさがり会の効果か子どもから大きくなって使わないからと玩具の寄付があった。	

3 取組概要	(取組日) 令和 7年11月14日 ～ 令和7年11月14日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 自分より小さな生き物に対しての関わり方や触れ合い方を知った。触れ合うことで小動物の温かさを感じたり、鼓動を感じ、自分達同様生きている、大切にしようとする気持ちが芽生えたり、愛おしいと感じる事も出来たようである。	
	(取組日) 令和 8年1月19日 ～ 令和8年2月3日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 全園児でエコバック作りをした。エコバックの用途を尋ねると子ども達からきちんと理解しているようであった。保護者の方も実際に使用している方が多く身近なものになっている。ビニール袋を使わないことでどんな利点があるのか知らせた。自分でオリジナルのエコバックを作ることが出来て喜び、実際に買い物の際に使用しているようだ。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園				
教 育 理 念	○子ども達一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、人と関わる力、たくましさを育てていく。 ○遊びを中心に主体性を大切に一人ひとりの個性・発達の姿に応じた援助・保育をする。				
事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ○	人間関係 ○	環境 ◎	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)				
2 事業概要	5歳児で保育園・幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』～ちがうけど おんなじ～を取り入れた保育活動。年4回実施。プログラムを通じいろいろな国々のことを知り、多様性を学び、子どもたちの世界観を広げるプログラムを活用し、SDGsを考え、意識し、具体的な実践につながる活動を取り入れていく。 古着交換会を開催して不要なものを交換し合い、廃棄するものを減らし、リサイクルし、物の大切さを知る。				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	全園児 5歳児(くま ぞう) 4歳児(りす うさぎ) 3歳児(きりん ばんだ)			97 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況			
	・取り組みに必要な人員・・・5歳児担任2名と補助、教諭2、3名。 ・パソコンとプロジェクターを使用し、プログラムを投影。 ・活動場所は、2階ホール・又は、2階保育室や1階子育て支援室。 ・聴診器を準備する。・絵本や紙芝居など 視覚教材を使用する。				
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
	移動水族館を通して直接触れたり、間近かで観察する事を経験することが出来、図鑑などでその他の生き物を調べたり、園で飼育している亀や金魚・メダカを通して水の中の生き物に興味や関心をしめし、エサやりにも積極的に参加したり、水の汚れなどにも気に掛ける姿が多くなった。				
計画時	5 事業のねらい	・世界の文化にふれ、多様性を学ぶ。 ・世界のSDGsの課題を知り、SDGsの問題を意識し、自分の事として身近に考え、出来る事からやろうとする気持ちを育てる。 ・個でも遊べるものを準備し、自主性や積極性が身につく自己肯定感が育まれる。 ・各家庭で不要なものを集め、リサイクルすることの大切さを知り、有効活動できるように働きかけていく。			
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
事業後	・『ちきゅうフレンズ』を通して海外の生活様式や文化、SDGsの問題を自分たちが住んでいる日本と比べたり、考えることが出来た。また、多様性についても知ることが出来た。 ・SDGsの問題をみんなで話し合い、自分たちはどうすべきか、何が出来るのかを考え、自分の事と捉えるきっかけとなり、視野が広がった。 ・異文化にも触れることが出来貴重な経験となった。 ・話し合いの場を多く設けてきたことで、自分の意見を発言したり、相手の意見を聞いたり、共感し合えることで、話し合いの姿勢が身についたと感じる。				

計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・保育園・幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』年4回と関連絵本・紙芝居などの教材を利用し、SDGsにつながる実践活動を実施。教材の実践を通して、出来ることを考える内容。 - 第1回オーストラリアと水 6月から9月《園の活動》バケツに水を汲み、水の重さを知る。移動水族館を通して海や川の水もきれいに保つことの大切さを知る。水を大切に使用する。汚水を生活水として使用している国があることを知り、水がきれいであることの大切さを知る。 - 第2回ケニアと生き物 9月から10月《園の活動》ふれあい動物村での動物たちとの触れ合い。(聴診器で心音を聞く。) - 第3回シンガポール ゴミ・リサイクル 1月から3月《園の活動》環境学習(葛飾清掃局ゴミ分別、清掃車見学)。 - 第4回まとめ 絵本や視覚教材を利用し、振り返りと他の17の目標のうち未実施のものを実施検討する。 ・世界には様々な理由で食事をとれない子、病気になってしまう子がいることを知る。 ・給食の残食表を作成し、日々の残食を意識出来るように表示する。 ・稲を植え、育てることで、米が出来るまでの過程を知る。 ・子どもの五感を刺激し、考える力を育み、自己の成長や発達を促していけるようにする。 ・古着交換会を開催することで、子ども達にも物の大切さを知ることができるように働きかけていく。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ・園の飼育物に対して、生き物の大切さ、世話をする事の大切さ、水槽の中の水をきれいにする事の大切さを知らせている。 ・水の大切さを知り、出したままにしないように自ら気を付けられるように伝えている。 ・園のゴミ箱に 表示をし、ゴミの分別を日頃から意識できる環境をつくり、自ら意識して分別が出来る様に伝えている。 ・折り紙制作、塗り絵など自由遊びの中で使用する紙の扱いを都度伝え、紙の大切さを伝える。 (継続事業のみ記入) 前年度の取組から発展させた点 ・各クラス単位での給食の残食表を実施するだけでなく、給食室における残食の量も知ることが出来るようにグラフにして示し、園全体の残食についても興味を持つ。 ・自分の成長を意識できるような関わりをしながら古着交換会について知らせていく。 ・環境学習を通して、ごみの分別の大切さとエコバック持参の買い物の必要性などを知らせ、自分のオリジナルエコバック制作を通して家庭にもエコバックの必要性を伝えていく。
		事業実績から推測される効果や改善点等 ・世界のいろいろな人々と文化にふれ、他国を意識し多様性を知るきっかけになった。SDGsという課題や環境問題にふれ、みんなで考え、できることをやろうとする気持ちが芽生えた。 ・水の中の生き物や小動物とふれあい、命の大切さや物や水を大切にすることが育まれた。また、森を守るにはどうすれば良いのかなどを知り、SDGsの問題をより身近な問題として実践につなげることができた。家庭へも活動報告をし、家庭でもSDGsの問題提起することが出来た。 ・区の環境学習により、無駄なゴミを出さない、減らす工夫など実際に学ぶことが出来、ゴミの分別の必要性に気づき、規範意識が芽生えた。園のゴミ箱に 表示をかくにゴミの分別を日頃から意識できる環境をつくり、自ら意識して分別をしている。また、どんなものがリサイクルされて何に変わるのかを知ること出来た。 ・世界には様々な理由で食事をとれない人達がいることを知り、毎日の食事が出来る事が当たり前ではないことを知ることが出来た。 ・給食を作る工程や使用する野菜の量を知り、作って頂いた方への感謝の気持ちが芽生えた。また、一日の残食の量を知り、自ら残食を減らそうと意識したり、残食表も意識している姿も多い。
	事業後	
	6についての効果・検証	
計 画 時	7 環境構成例	・保育園・幼稚園向けオリジナルSDGsプログラム『ちきゅうフレンズ』を実施。ホールで視聴。パソコン・プロジェクターを用意。 ・ちきゅうフレンズのワークを選択し、実施。ワークシートを印刷し、園児に配布。ワークシート集を作成し、用意する。・海外の文化や生活様式、食べ物、ダンスなどを知る。映像から学び、踊ったりする。 ・砂や色水や紙粘土カラーキューブ・色板・積木などの様々な素材を用意し、自由に好きな遊びを選び楽しめるようにする。 ・SDGsに関する絵本、紙芝居、書籍などの準備。 ・残食表の表示。 ・各家庭で不要なものを集められる期間を提示し、周知できるようにしていく。 ・サイズ別、品物別に集められるようにケースなどを設置し、各家庭で仕分けしやすいようにしていく。

事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ホールで学年で映像をみた後、ワークシートに取り組んだ。 異文化に触れたり、SDGsの問題を考えることが出来た。 園独自の活動としては、エコバック作成や移動水族館、ふれあい動物園、環境学習、米づくり、園全体の残食の量を知る体験、残食表の掲示など、具体的に活動にイメージを落とし込みSDGsの問題を意識しながら実践することが出来た。 各家庭で不要になった衣類等を集め、【おさがり交換会】と題して交換会を行った。園の制服や私服、靴やレインコートなど様々なものが集まり、たくさんの保護者に喜んでもらえた。子ども達も自分たちの持ち物でリサイクルするという経験を通して小さい子たちに使ってもらえることの嬉しさを感じることが出来た。また子ども達からも使わない玩具があり、小さい子に使って欲しいなどと声が上ががり、リサイクル意識が高まった。
8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・世界のいろいろな人々と文化にふれ、多様性を意識する。他国の子どもたちへの意識を広げていく。 ・世界の言語に興味を示し、いろいろな国の挨拶など自ら調べようとしたり、話してみようとする姿が見られる。 ・様々な国の民族衣装などにも興味を持ち、自国の文化に対しても興味を持つようになる。 ・SDGsという地球上の誰もが考えるべき課題や環境問題にふれ、みんなで考え、できることをやろうとする気持ちが芽生える。 ・残食表を意識し、少しでも残食を減らすにはどうしたらよいかクラスでも話し合いをし、自分の考えを伝えようとする。 ・世界の食文化や食事について知り、毎日食事が出来ることが当たり前ではないことを知り、感謝の気持ちが芽生える。 ・米が出来るまでの過程を知り、一粒の米が出来るまでに時間がかかることや手間がかかることを知り、大切にすることを覚える。 ・リサイクルする事の意味や大切さを知り、ものを大切にする気持ちやもったいないの精神が身に付く。 ・ゴミの分別などのルールの一環の必要性に気づき、規範意識が芽生える。
事業後 8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・異文化や、生活様式の違いをしり、生まれ育った場所によって、言葉や肌の色、髪の色、食べ物、民族衣装、踊りなどに興味・関心を持ち、他国と自国を比較したり、意識するようになった。又、英語だけでなく同じ意味の他国の言葉を調べる ・食事を食べることへの感謝、食べ物の大切さを知り、自ら残さずに食する姿が多くなった。 ・環境問題等に対して、紙・水・ものを大切にする意識が芽生え、出来る事から取り組もうとする姿が見られる。
9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・『ちきゅうフレンズ』を活用することで、多様性への学びにつながった。海外の問題を身近な問題として捉え、意識し、考えるきっかけを持つことが出来た。 ・世界には食事が食べれない国もあることを知り、食に対する意識が変わり、食べ物を大切にしようとする姿が多くなった。また、米づくりの過程を稲を育てる活動を通して知り、手間暇かけて作られていることに感謝し、一粒の米も大切にしている。 ・地球を大切にすることを育み、人や生き物へ対しての思いやりも育ち、園での飼育物に対しても今まで以上に気に掛け、水の交換やエサやりなどを手伝う姿が多い。 ・区的环境学習を通して、きちんとルールを守り、分別してごみを出すことでリサイクル用品になる事や地球を守る事をし、今まで以上にゴミの分別を意識し、分からない時や悩んだ時には確認する姿も多い。 ・身近なものを交換会を通してリサイクルする経験をしたことでリサイクルの意味や意義を保護者や子ども達が意識するいいきっかけとなった。 ・オリジナルのエコバックを作ったことで、ビニール袋ではなくエコバックを持ち歩くことの大切さ、環境に良いことをしていると感じる事が出来たようである。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。